

## 生活支援コーディネーター（SC）活動報告について

以下、項目ごとに生活支援コーディネーター（以下、SCと表記。）の活動状況をご報告します。内容は、前回会議（令和3年7月）以降のもので、年度内の今後の予定も含まれます。

### 1 寒川町の公園、緑地、緑道マップの活用

#### ① マップの配布と配布場所の周知

- ・寒川町高齢介護課（町役場）、寒川町社協（町健康管理センター）で配布中。
- ・町社協の広報紙「社協さむかわ（令和3年10月発行号）」に、配布していることの紹介記事を掲載すると、翌日早速受け取りにお見えになった方も。

#### ② マップ配布場所の拡充

- ・中里公園（宮山）にフクロウを見にくる人へ配布
- …マップを受け取った方が宮山の中里公園を自主的に維持管理されている方で、町高齢介護課と情報交換してくださる。SCからお電話すると、「中里公園に11月以降フクロウが飛来し、それを楽しみにたくさんの人が写真撮影などで中里公園を訪れるので、その際にこの公園マップを配布したい。このようなマップがあつて私たちも励みになる」とのお話。部数を揃え配布を依頼※
- ※ご依頼の際、「次回の発行の際には、公園の案内文を見直してみても？その公園の魅力や見どころを紹介するような内容にすれば、「あの公園に行ってみよう」という気持ちにつながるのでは？」とのアドバイスあり。
- 例えば、中里公園には「11月頃からフクロウ飛来」等の書き方で。

- ・観光協会で配布

…上記、中里公園のお仲間が観光協会でも活動をされていて、「このマップを観光協会へつないだらいい。観光協会主催の町歩きのツアーなどもあるし、活用できると思う」とのアドバイスをいただいた。観光協会の職員にマップを届け情報交換すると、「このマップに、車いすのまま使えるトイレの情報が記載されているのがありがたい。「車いすでも大丈夫な公園はありますか？」とお問い合わせがあるので、このマップを活用させてもらおう。今後、お互いが発行している地図の内容を共有しながら、お互いにとってより良いマップの作成につながれたらいいですね」とのお声もいただいた。

③ マップに掲載の公園で、身近な気軽な体操の場（通いの場）ができるように協力依頼の種まき

- ・健康運動ボランティア（町・健康づくり課）の会合に出向き、公園マップを配布して趣旨を説明。反応は良く、今後、具体的な相談を進めていく。  
会合参加者は20名ほど。
- ・寒川町シニアクラブ連合会の役員研修会に出向き、公園マップを配布して趣旨を説明。反応は良く、今後、具体的な相談を進めていく。  
研修会参加者は50名ほど。

## **2 一体的実施事業におけるSCの役割発揮と相乗効果**

高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業に、SCとして参画している。事業担当者（町役場・健康づくり課、高齢介護課、保険年金課）とSC（社協）で、様々な情報交換ができるようになり、お互いの事業にプラスに働いている。

具体的には、

町役場の一体的実施事業担当者にとっては、

- ・ポピュレーションアプローチにおいて、地域の「通いの場（サロンや体操の場）」の情報は必須であり、当初のSCからの情報提供をもとに、今では多くの通いの場と直接、対話ができる関係になっている。いくつかの通いの場の代表者からは、次年度も含め継続的プログラムの依頼がある。
- ・SC（社協）がもっている地域情報（団体、人、その他もろもろ）が、打合せでの様々な内容の協議の場で、時に話を前に進めるきっかけになっている。
- ・一体的実施事業は自治体それぞれに取り組みの度合いや内容が違う状況であるが、寒川町の場合、SCが参画することで地域情報を共有しながら地域密着の取り組みになっていることについて、好事例であると評価をされている。  
自治体職員向けの研修の中で、寒川町の事例を発表することになったほど。

社協のSC担当職員にとっては、

- ・定例の打合せにおいて、町役場の担当者であり、かつ専門職（保健師、栄養士、管理栄養士、歯科衛生士、歯科医師等）としての視点と情報を多々見聞きすることができ、その中から、SCとしてどの部分に関わることがきるの

か、高齢者の生活支援・介護予防の取り組みを、どう見出して関われるのかの視点を得ることができている。

- ・ポピュレーションアプローチの現場に同行することで、サロン（通いの場）という場所を、地域住民の交流や時に安否確認、福祉的な相談の場としてだけ捉えるだけでなく、介護予防や生活支援を多くの住民に対して提供できる場となりうることが分かり、サロン活動の取り組みの視野が広がった。
- ・SCの視点で、社協のことを伝えたり、必要な情報提供や業務上の連携ができるようになってきている。

### **3 通いの場等でSCとして生活支援や介護予防関連の社協事業を紹介**

寒川町シニアクラブ連合会の会員の皆さんに助けられ、あちこちの通いの場に呼んでいただき、SCとして、社協の事業をじっくり紹介させていただいている。高齢者であるご自分にまたご家族に関わる内容を選びながら伝えることで、より多くの方に、SCのことが、社協のことが、伝わっている。

- ・寒川町シニアクラブ連合会：田端高砂会、総務会、会員研修会、倉見福寿会、ゆめクラブ大曲
- ・岡田もくせいハイツ自治会 組長会議（毎月第1土曜日19時～）
- ・県営寒川もくせいハイツ第二自治会 幹事会（毎月第4土曜日19時半～）
- ・寒川町 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業 定例会（月1回）
- ・寒川町 家族介護教室
- ・寒川町議会：文教福祉常任委員会との情報交換
- ・寒川町民生委員児童委員協議会：役員会、定例会、地区民協
- ・社協：ボランティア体験会、ボランティア学びあい講座、ボランティアセンター打合せ（月1回）

- ・社協：地域福祉部会
- ・社協：広報紙「社協さむかわ」（年4回発行）
- ・社協：介護に関する入門的研修
- ・社協：地域包括支援センター 認知症地域支援推進員  
認知症サポーターステップアップ講座および講座受講者との懇談会
- ・社協：地域包括支援センター  
寒川町地域ケア会議（個別会議）（毎月第3火曜日）

#### **4 高齢者が活躍している地域福祉活動の支援＋ネットワーク構築支援**

コロナ禍でも、少しずつ、支え合いの活動が再開しています。コロナ禍でも、新たに始まった活動もあります。地域で、住民の皆さんの熱い気持ちに触れ、シニアパワーを目の当たりにし、こちらが元気をもらってきます。

「支援」という表現はおこがましい気がします。応援、バックアップ、協力、並走…でしょうか。

そこには、常に、人や情報をつなぐ、いわゆる、ネットワークを構築する要素が含まれています。

※以下に記載の内容では、全て、シニア世代の活躍、シニアパワーが動いています。

- ・一之宮あつまろうサロン 今後について、助成金について  
一之宮第一ゆめクラブ、一之宮第二ゆめクラブとの関連も。
- ・寒川町ボランティア連絡会へ地域活動応援ルームの案内
- ・認定NPO法人WE21ジャパン WEショップさむかわへ、フードバンク  
の立ち上げの向けての相談
- ・（社協）ボランティア体験会で車いすの説明と体験をサポート
- ・小出川彼岸花まつりへ 大蔵、越の山エリアのシニア連の方や地元の団体の

方が出店の当番や来場者への案内をされていた。

- ・一之宮北自治会エリア 子ども食堂#ひろば 立ち上げ支援  
～昨年3月末で活動を終了したボランティアグループ「まるぱく」主催の「陽だまりカフェ（カレーライスと飲み物を提供、岡田もくせいハイツ自治会第1集会所にて）」から、炊飯器と電気ポットの提供があり、それを子ども食堂#ひろばで活用できるとのことで、つないだ。
- ・子ども食堂えんがわ（夏休みの特別企画）工作の時間のサポート
- ・小谷パールクラブ定例会に参加し活動状況の把握。
- ・小谷パールクラブお助けマンサークル定例会に参加し、①活動状況の把握  
②「安全運転勉強会」の内容の確認および講師の調整を手伝う。  
講師は、NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワークにつなぐ。
- ・小谷パールクラブお助けマンサークル「安全運転勉強会」に参加し、進行等のサポート。お助けマンサークルは、シニア同士の支え合い、かつ、車を使う活動ゆえに安全運転は絶対条件。座学と実車での講習で、皆さん、気を引き締めて学んでおられた。
- ・小谷パールクラブ映画会 機材貸し出しと上映サポート。
- ・岡田もくせいハイツ自治会 夜間パトロールに参加し、情報共有。
- ・地域福祉活動推進のための活動経費助成金交付  
（自治会、町内小中学校、障がい当事者団体、ボランティア団体、サロン運営団体等へ）
- ・「大曲マップ」作成のための打合せに参加。一体的実施事業において大曲マップの作成をするにあたり、すでにSCで発行済みの公園マップの情報等、参考にしてくださる。
- ・パワーズさむかわの定例会へ参加し、ボランティア活動の相談やボランティア講座の相談をする。今後、定例会を、夜間ではなく昼間に変更する。（夜間、暗い中を会議に集まるのは、足元も危ないので、安全のために変更。）

- ・茅ヶ崎寒川地区自閉症児者親の会主催 バリアフリー上映会 映画「星に語りて」参加、鑑賞。シニア世代が多数鑑賞していた。重度障がい者がヘルパーの支援を受けながら地域で一人暮らしをしている生活ぶりを紹介するドキュメンタリー。寒川町の状況や支え合いを見つめる、考えるきっかけになっている人もあったと思う。
- ・倉見自治会より、「ふれあいサロン絆くらみ」ほか、自治会の活動や行事における行事用保険の確認と相談。社協ボランティアセンタースタッフと内容の共有と対応。町・町民協働課からも情報収集。
- ・寒川町にフードバンクをつくろう♪情報交換会を全6回で開催。今後の活動の立ち上げを支えてくれる心強い方々と、新たなつながりができた。「自分はこういう内容であれば手伝える」と積極的な発言多数。
- ・「オレンジカフェ」のチラシを寒川町シニアクラブ連合会の体操の場で配布依頼。
- ・「オレンジカフェ」の主催：さむかわ音楽ひろば実行委員会、および、協力：一般社団法人 日本音楽医療福祉協会で活動されている方とは、認知症に関する関係機関のネットワーク「チームオレンジ」の打合せでSCもお話を伺っていた。認知症のケアにもつながる「音楽療法」を、寒川町内で広めていけるような活動をしていきたいとのご意向だった。今回のオレンジカフェの開催の関係で何度かお話しをさせていただく中で、地域にあるサロン（通いの場）の話題にとっても関心を示されて、「まさにそういった地域に入り込んだ場所での活動が理想的。堅苦しくなく、音楽を楽しむ時間という捉え方をしてもらえれば。単発でなく継続的にできれば尚ありがたい」とのお話。オレンジカフェのチラシ配布の際にサロンの運営者の方数名には情報提供。運営者自らオレンジカフェに参加し、直接、主催団体の方とつながってくださった方もいた。次年度の活動内容の調整中だったそうで、新たなプログラムとの出会いを喜んでおられた。
- ・倉見に子ども食堂をつくりたいという方とお会いする。運営メンバーには、ご自身含め「食」に関する活動をしている方々でシニア世代も集まってきているそう。着々と立ち上げ準備を進めてくださり、令和3年12月25日に初回の開催となった。

- ・社協ボランティアセンター主催の「ボランティア学びあい講座」を全7回のプログラムで開催。SCとして、支え合うまちづくりの視点で話をした。町内の様々なボランティア活動の紹介や福祉に関連することなど、町内で活躍する方々に講師となっただき、内容たっぷりの講座となった。まさに、シニア世代の学びの場、ボランティア活動を始めるきっかけづくりの場となり、受講されている皆さんの熱心な姿が印象的だった。
- ・「子ども食堂へ自分の畑の野菜の提供をしたい」と町内の複数の方から問い合わせがあり、町内の子ども食堂へつないだ。畑の主はシニア世代。「自分がつくった野菜で、子ども食堂で食べる子どもが喜んでくれたら嬉しい」との気持ち。その後も継続的に子ども食堂と野菜の提供のつながりができたところもある。
- ・新橋すみれの会（サロン）に参加。体操、おしゃべり、お菓子は持ち帰り。参加者は全て新橋アパート居住の高齢者。ご主人を亡くされたある参加者を慰めるために、ご主人を偲んでお別れができるように、写真やお線香などを設置してくださっていた。サロンに参加される方が順番に声をかけながら手を合わせ、残された妻に声かけをされていて、同じ団地の住民同士の気にかけて合いが、いいなと感じた。
- ・さむかわ災害ボランティアネットワーク（SSVN）の定例会に参加。活動状況の確認とボランティア学びあい講座の相談。北部文化福祉会館主催の防災講座の講師にも協力するとのことで、団体として町内の社会資源とつながりながら、自分たちにできることを話し合いの中から組み立てていかれる定例会の雰囲気があった。今年は初めて町内の小学校での防災と福祉に関する学習にも協力し、SSVNのメンバーの今までの経験等が地域での活動の実践となり、活かされていく様子が心強かった。また、継続している被災地支援の団体とのつながりを手伝った。
- ・町ぐるみ美化運動に参加。岡田もくせいハイツ自治会の皆さんと取り組んだ。今回、町内の高齢者施設・寒川ホームから「地域貢献の気持ちで町ぐるみ美化運動に参加したい」との相談を受け、岡田もくせいハイツ自治会に相談、自治会長は快諾してくださった。施設名を聞いて身近に感じる住民も複数おられ、声をかけてくださった。町内の施設のスタッフと地域住民の方が、このような場面で直接顔を合わせたり、一緒に美化活動に取り組む、新たなつながりづくりになると感じた。参加した施設スタッフも「このような活動

ができてとても良かった。継続して取り組みたい」と感想があった。

- ・町内で新たに障がい者関連の事業所を立ち上げていきたいという方が、地域の関係団体とのつながりづくりについて相談に来所。シニアになりたてのエネルギッシュな男性2人。話題の中心は障がい者支援をどう展開できるか、という内容だが、そこに挑もうとしているシニア世代の気持ちや地域活動の応援はSCの役目。
- ・障がい者団体主催の研修会に参加し「サウンドテーブルテニス（STT）」を教えてもらう。障がい者スポーツの分野で活躍しているシニア世代がたくさんいる。いわゆる、ユニバーサルスポーツの視点で、誰でも参加できるスポーツの場づくりにつながれば、高齢者も一緒に楽しめる。公園マップからの体操の場づくりも、きっかけとなるか。
- ・県営さむかわもくせいハイツ第二自治会で、令和4年2月に完了するテラスの居住者の引越しにおいて、自身で引越しが完了できない高齢者世帯、高齢者と障がい者の子どもの世帯について相談を受ける。地域包括支援センターをはじめ、町高齢介護課が動いてくださる。自治会長も民生委員も、その対象世帯のことをよく把握されていた。問題行動と思われる内容であっても、見てくれて、気にしてくれて、相談につないできてくださることが、住民同士の見守り機能としてありがたい。
- ・新町新生会へ映画会開催のための機材の貸し出し。サロンの運営者ご自身で機材の設定や上映など全て対応してくださる。ひと時、地元の集会所で近くの住民が集まったの映画鑑賞。「高齢者にとって、出かけられる場所があることはやっぱり必要な。みんな楽しみにしているからね」と。
- ・町内で新たに、「産前産後の母子と地域とをつなぐ。産後1年に特化した子育て支援の新たな拠点づくり」を進めている、子育て中のママさんの相談を受ける。「地域の団体やシニア世代、たくさんの方とつながりながら運営したい。離乳食のケアのために、まずは食と栄養の面でボランティア活動をしているグループとつながりたい」とのこと。ベテランから若手まで、栄養士として活躍中のメンバーで構成されている町内のボランティアグループ「にんじんの会」を紹介。
- ・民生委員の児童部会の皆さんと一緒にZoomの勉強をサポート。シニア世

代におけるSNSの活用状況は個人ごと様々であることを目の当たりにする（電話だけ使う、電話とカメラを使う、メールはSMSだけ使う等）。でも、皆さん、関心はある。すでにZoomを使いこなしている方が一緒にサポートしてくださり、ごくごく初心者向けのZoomの学びあいの場となった。まずは、Zoomで開催される研修会等への参加を目指すとのこと。

- ・社協の日常生活自立支援事業の生活支援員情報交換会に参加。日常の金銭管理や契約等の支援を行う日常生活自立支援事業において、住民目線での関わり、定期訪問等を行う生活支援員。対応する利用者それぞれに特徴もあり、対応に悩むこともある。同じ立場の生活支援員同士で情報共有することで、お互いのことを知り、活動に生きる情報を共有できる、大切なネットワークになっている。
- ・大曲おこじゅうの会シニアに参加。久しぶりに集まって、お話しの時間。帰りにお弁当をお土産に受け取り、解散。時間はわずかでも、やはり、集まって、顔を見て話せること。何物にも代えがたい時間のようだった。集合写真の皆さんはとても良い笑顔。  
また、久しぶりに集まることで、体の状態が変わってしまい介護が必要な状態になってしまったことが分かった参加者や、認知症が進んでしまった参加者もいるという状況を、複数のサロンの運営者からお話があった。
- ・ボランティア交流会を開催し、新年に向けてのお正月飾りを作りながら、ボランティア同士での交流の時間。何か作業をしながらの時間は話も弾みやすかった様子。日頃、個人でボランティア活動をしている方は、ボランティア同士で会ったり話したりする機会があまりないので、交流会は良い機会となっている。ボランティア同士で顔見知りになったり、お互いの活動を聞いて関心をもち、新たな活動を始めるきっかけになったりしている。
- ・さむかわクリーナーズの活動に参加。生活保護受給者による社会参加、地域貢献活動として、地域の美化活動に取り組んでいる。参加者にはシニア世代も多い。生活保護受給者同士が力を合わせて活動するというのは、さむかわクリーナーズの特徴。担当のケースワーカーも一緒になって美化活動をする。また、昨年度から、美化活動に出かける前に「健康相談」として、町健康づくり課から保健師や栄養士が対応し、血圧測定等をしながら話を聞いてくれている。美化活動終了後には車座になって、感想を述べあうなど、コミュニケーションの場も。美化活動だけでなく、町の仕事の受注などもあれ

ば受けて、さむかわクリーナーズとして、地域のいろいろな団体や人とつながっている。

さむかわクリーナーズの主管は、神奈川県平塚保健福祉事務所茅ヶ崎支所。

- ・社協で、ひとり親で主に母子家庭の方へ、クリスマスプレゼントを渡すイベントを開催。クリスマスケーキやお米、手袋や鏡餅、ジュースやタオルをお渡しした。物品は全て寄付によるもの。このイベントの運営を、フードバンクの情報交換会に参加して下さった方に呼びかけ、ボランティアで手伝っていただいた。「今日の活動に参加できて良かった。こういうボランティア活動をまたやっていきたい」と、感想があった。新たな活動の場、新たな活動の場で新たにつながっていく人、地域の支え合いが、少しずつ増えていく。
- ・寒川町内の子ども食堂が全部で4ヶ所になった（※別添「社協さむかわ172号」参照）。どの食堂もシニア世代の活躍がある。なお、メンバーの連絡手段は主にLINE。皆さん、使いこなされている。

### 寒川町

#### 生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議

★この会議の愛称は… **ほっと。**

★この会議が取り組むことは…

**生活支援コーディネーターと両輪となって！**

寒川町に、

**支え・支えられ＝「お互いさま」を増やしたい**

**「お互いさま」の中に 高齢者がたくさんいて欲しい**

そのために、

**1あるもの探し    2あるもの活かし    3あるもの繋ぎ**

**4必要なもの探し    5欲しいから自分でつくる**

**をお手伝いします**